

めぐる

- これからのこども図書環 -

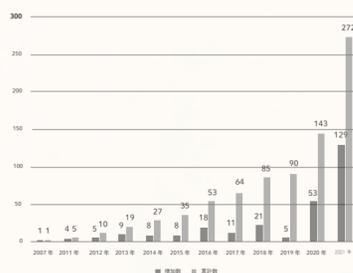
00 背景 - 情報化による図書館とこどもへの影響 -

1990年代以降、急速に発達した情報化により、電子書籍の利用が普及している。書籍の電子化が進むことによる影響を「図書館」と「こども」の観点から考察した。

①電子図書館の普及

情報化により電子書籍の利用が普及し、紙の本がなくても図書機能が成立する時代が訪れている。

2021年時点で、272の自治体が電子図書館サービスを導入し、これは全体の15.2%に相当する。



紙の本を保存する図書館に
新たな役割や存在意義が必要

②こどもへの影響

情報化によるメリットが多くある一方で、電子媒体を利用して本を読むことに着目すると多くの問題点が見つかった。

- ・乳幼児や園児にとって高度な機器操作
- ・知識の偏り
- ・情報モラルによる事件や事故

こどもにとって
紙の本は必要とされ続ける

電子出版制作・流通協議会、「電子図書館を導入している公共図書館情報」より作成

01 図書館から図書環へ

書籍の電子化が進む現代においてこれからの図書館は、紙の本を所蔵し、提供する図書館からこどもの読書“環”境を整え、こどもや紙の本が“環”る **こども図書環**としてサービスを提供していく。また、本のための静かな場所として限定するのではなく、こどもにとって様々な価値観を創出できる場とする。

①こどもを中心としたサービス



従来の図書館：すべての地域住民に平等に図書館サービスを提供

こども図書環：こどもの読書を中心としてすべての地域住民が本と関わる

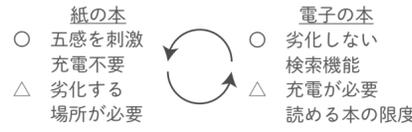
②本のまちづくり



対象：地域住民、まちで働く人、学校の先生
 ・運営・管理する「まちの本棚」を設置
 ・こども向け本・本棚の貸し出し

・本が身近な存在となる
 ・大人とこどもの相互の学びが生まれる

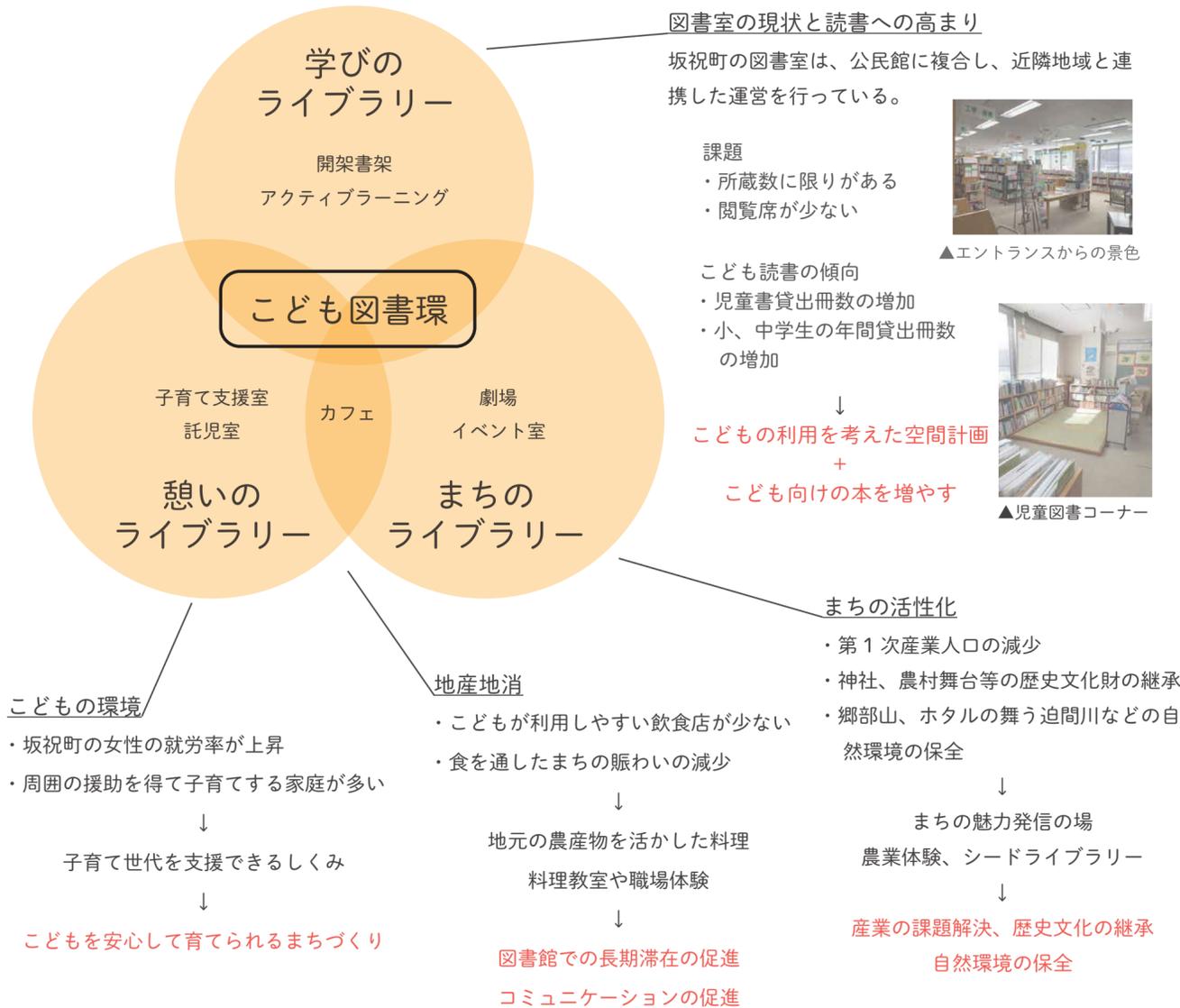
③紙と電子の共存



相互の欠点を補い合う仕組み
 ・#(ハッシュタグ)を用いた紙の本の管理
 ・ICチップによる紙の本の管理

・検索に加え、関連した本を紹介する
 ・自分の好きな本を好きな本棚におくことができるようになる

02 坂祝町 - 現状を踏まえたライブラリー計画



03 対象敷地 - 町民プール跡地 -



対象地は岐阜県加茂郡坂祝町の町民プール跡地。周辺には公民館、社会福祉施設、多目的広場、運動場、スポーツドームがあり、まちの「教育文化レクリエーション地区」に位置する。

敷地選定理由

- ・プール跡地の活用案が決まっていない
- ・町の中心に位置する
→ アクセスの容易さ
- ・公共施設があること
→ 多世代交流
→ 地域交流の促進

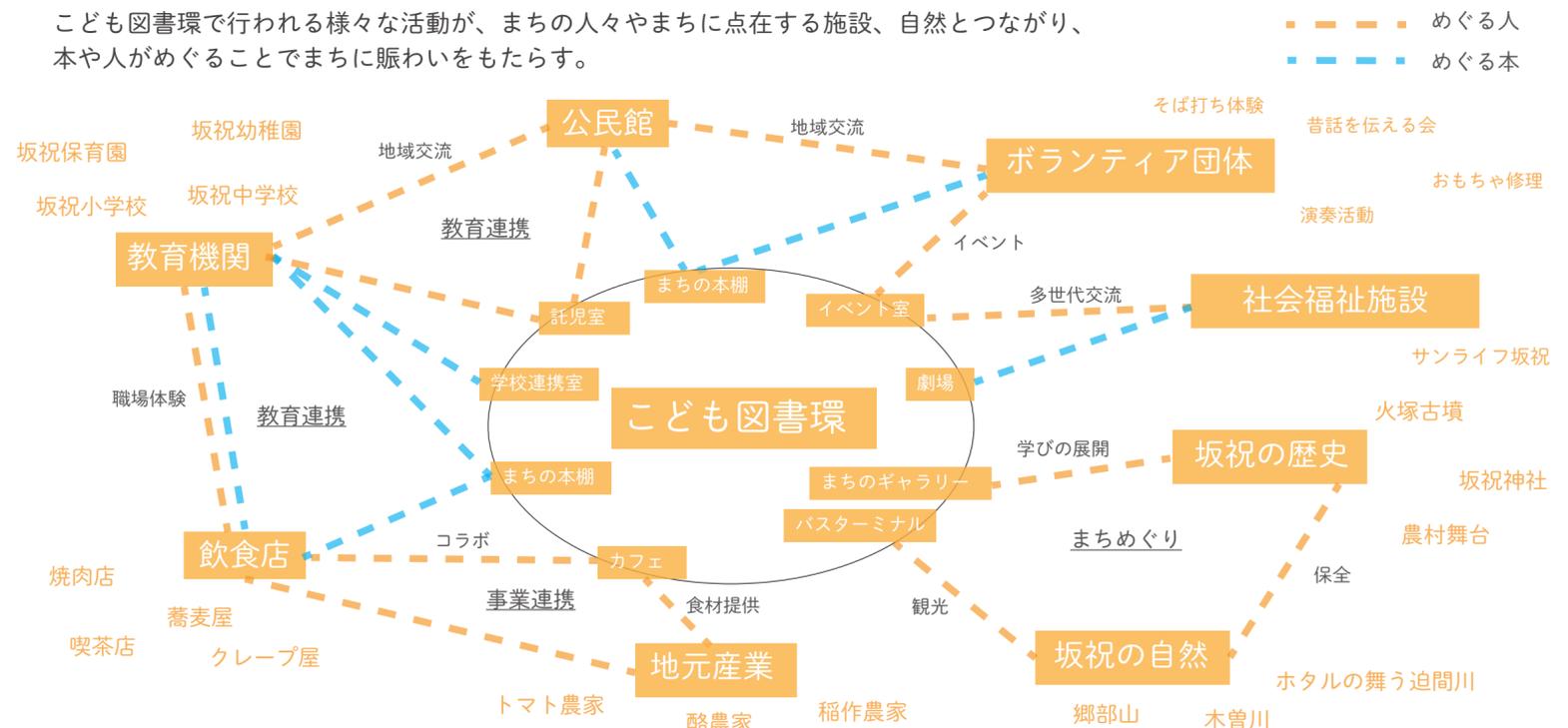
敷地面積：約 9,980m²

坂祝町町民ふれあいプール

施設の老朽化、プールとしての運営事業が厳しく、2020年8月28日に廃止。1996年7月にオープンし、2020年8月(計24年間営業)までの間で総入場者数656,192人を記録した。町民だけでなく、周辺地域や他県から多くのこどもや若者、親子が訪れ、夏には賑わいのあった場所である。

04 めぐる本・めぐる人

こども図書環で行われる様々な活動が、まちの人々やまちに点在する施設、自然とつながり、本や人がめぐることでまちに賑わいをもたらす。



05 本棚が織りなす空間 - 自由な書架計画 -

1. 高さの変化



本棚の高さを変化させることで、座る機能や立ち話しの際のテーブル、目隠しなど様々な機能を得る。

2. 階段と本棚



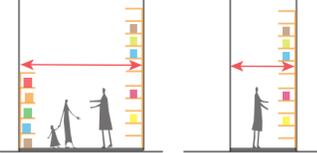
階段の蹴上に合わせた本棚とすることで上り下りの度に違った景色を魅せる。また、階段下はこどもだけの秘密の場所にもなる。

3. 半屋外での読書



屋内だけでなく、半屋外にも本棚を設けることで、豊かな自然を感じながら、屋外での読書が可能となる。

4. 通路幅の変化



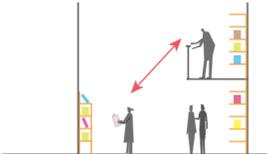
通路幅によって、本棚との距離感や賑わいが異なり、多様な空間を生む。

5. 本に囲まれた空間



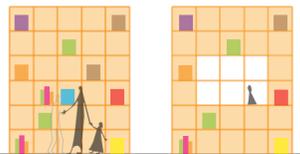
天井まで伸びる本棚で周囲を囲むことで、落ち着きやこどもの好奇心を掻き立てる空間となる。

6. 吹き抜けのつながり



視線や音が上下階を行き交うことで、新たな本の発見や建物全体のつながりが生まれる。

7. 見え隠れする本棚



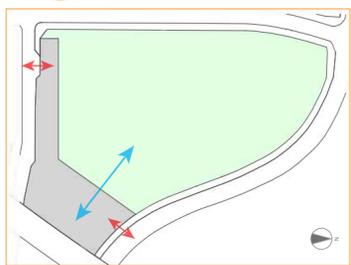
開口のある本棚やない本棚を設けることで、人や景色が見え隠れし、本以外のつながりが生まれる。

8. 様々な開口を持つ本棚

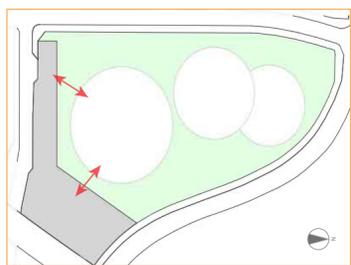
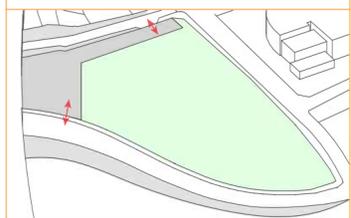


大小様々な開口を設けることで、読み聞かせの空間やくつろぎの空間、プライベートな空間など多様な空間がつけられる。

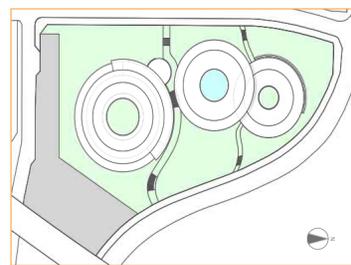
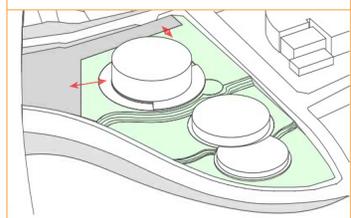
06 ダイアグラム



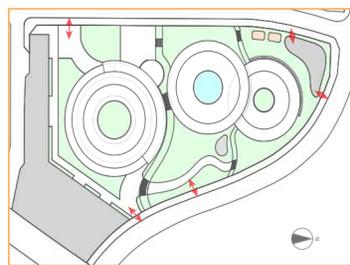
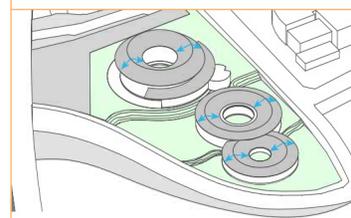
南東にあるバイパスからの騒音や排気ガスなど問題を考慮し、バイパスの側にL字型の駐車スペースを設ける。駐車場への出入りを接道条件に沿って2方向設けることで出入りを用意した。



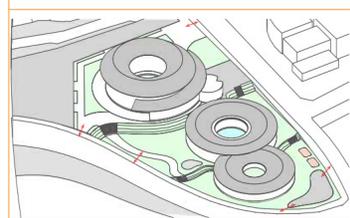
傾斜を段上に切り開き、周辺の景観等を考慮し、南から順に建物を配置する。回遊性やめぐるイメージを強める円形空間とした。



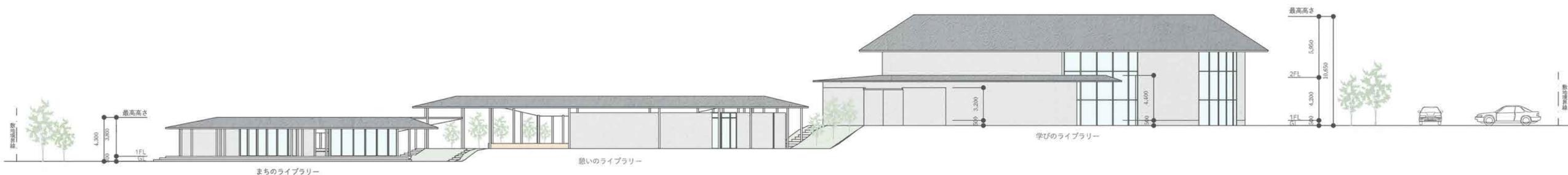
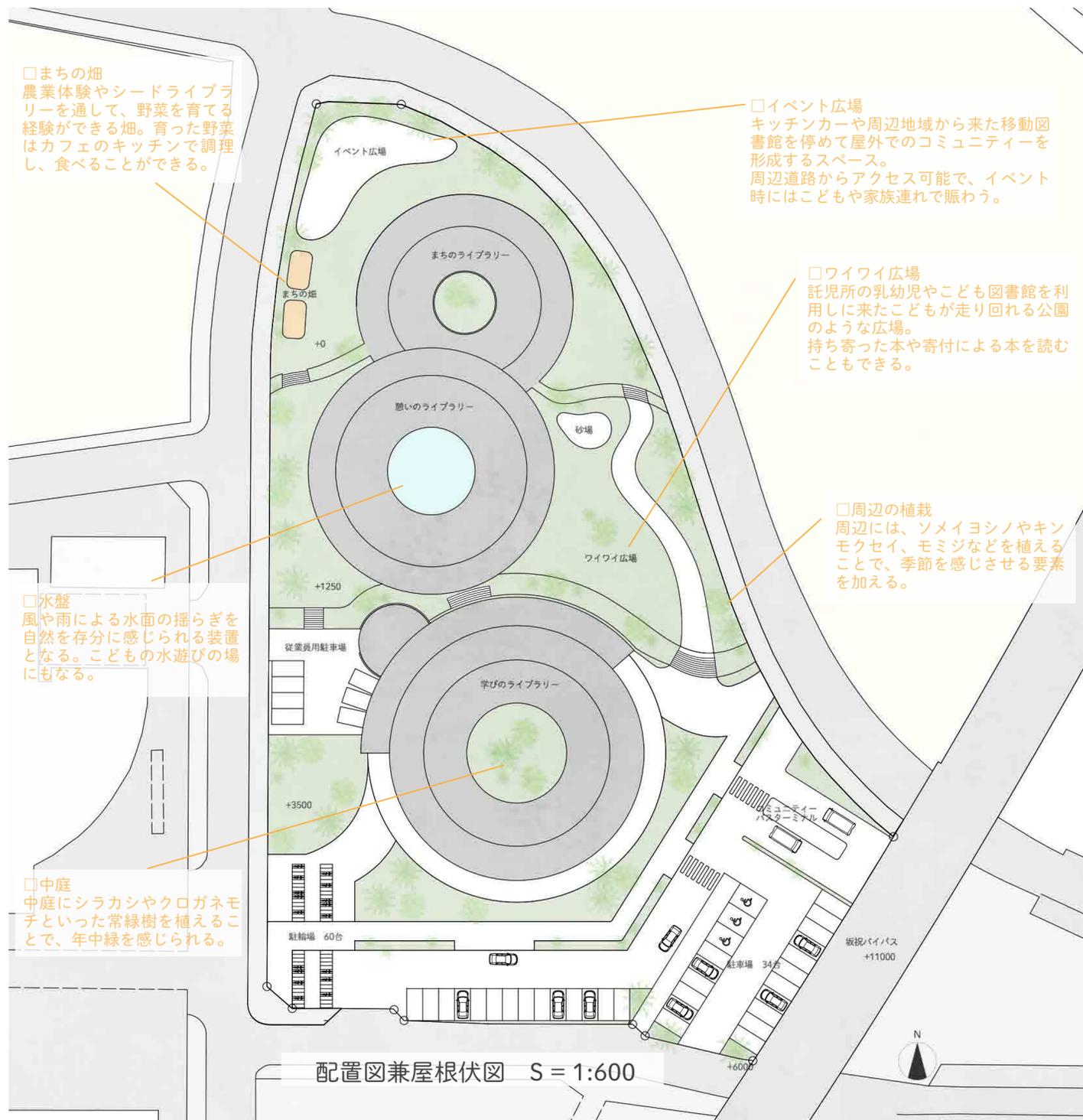
各ライブラリーの中央をくり抜き、中庭を設けることで、自然を取り入れる。さらに、中庭と外庭に傾斜する円形の屋根をかけることで、ライブラリー空間内で、落ち着きと内と外への視線が生まれる。



歩行者、自転車の道を接道条件に沿って加え、こどもが利用しやすい動線をつくる。周辺の歩道からのアクセスも可能。畑や砂場、イベント広場などの屋外での賑わいを外庭に計画した。



07 配置計画及び外構計画



08 学びのライブラリー

子どもが様々な本と出会い、自由にめぐることができる空間。どこでも好きな場所で読むことができる。

・ロードライブラリー

中央の回廊に沿って配置した書架の動線。オススメ本が並ぶだけでなく、子どもが自由に好きな本を置き、自分の本棚を作ることができる。

・大型絵本 - 読み聞かせコーナー

周囲を書架で囲み、落ち着きのある空間。小上がりの床となっており、靴を脱いで利用することで読み方の幅が広がる。

・児童図書コーナー

円形の書架や高さの異なる書架を配置し、様々な本と出会うことができる。

・アクティブラーニングコーナー

中高生が中心となり能動的に考え、学習するスペース。様々な世代が集うことで、新たな仲間やコミュニケーションを促進する。

・情報室

本の検索や電子書籍での閲覧をする空間。電子書籍の正しい使い方や情報モラルを学び、より多くの本に触れる機会を増やす。

・学校連携室

職員同士の相談や司書との連携を円滑に行う。周辺の本棚には先生のオススメ本が並ぶ。

・2階開架書架

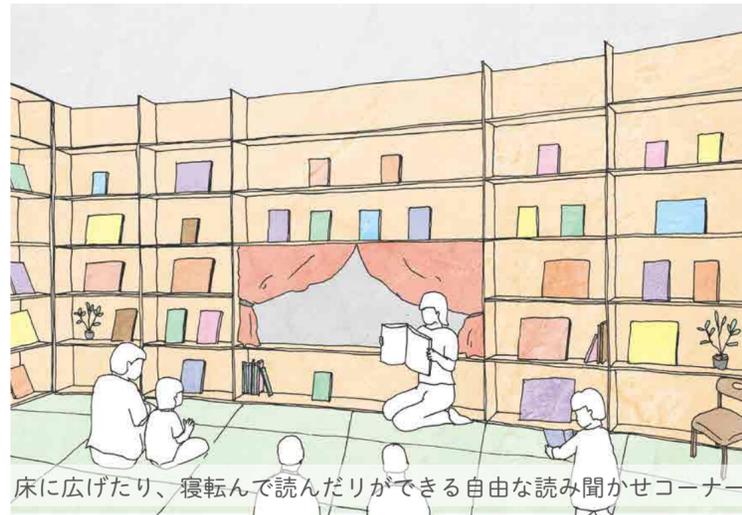
日本十進分類法に基づいて配置された開架書架空間。



屋根まで伸びるカーテンウォールが自然を優しく取り込み、外と内をつなげる。建物全体に一体感が生まれ、広がりのある空間となる。



本に囲まれながら、のぼる階段書架

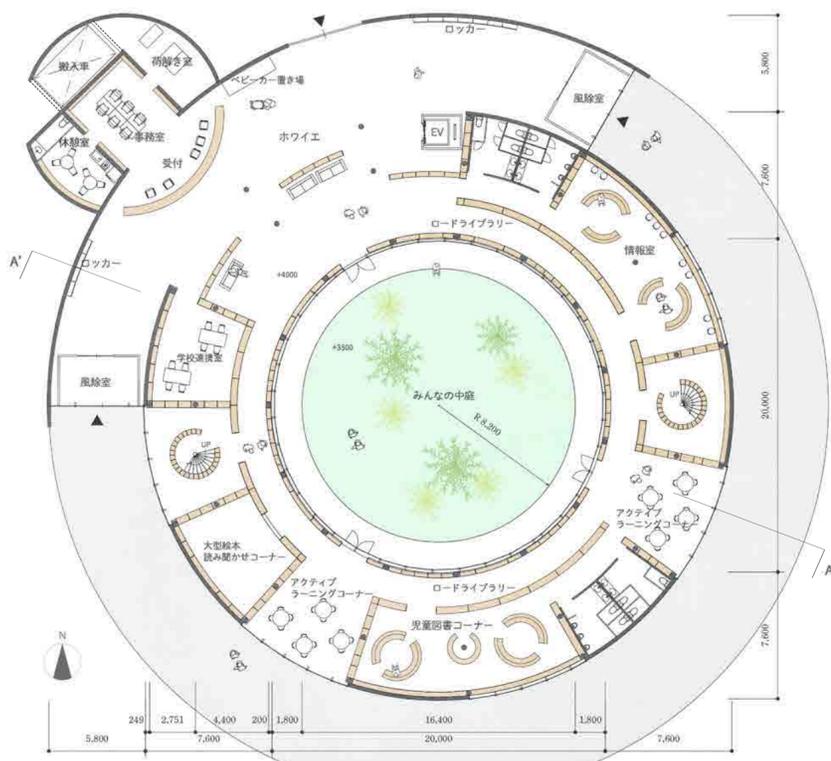


床に上げたり、寝転んで読んだりができる自由な読み聞かせコーナー

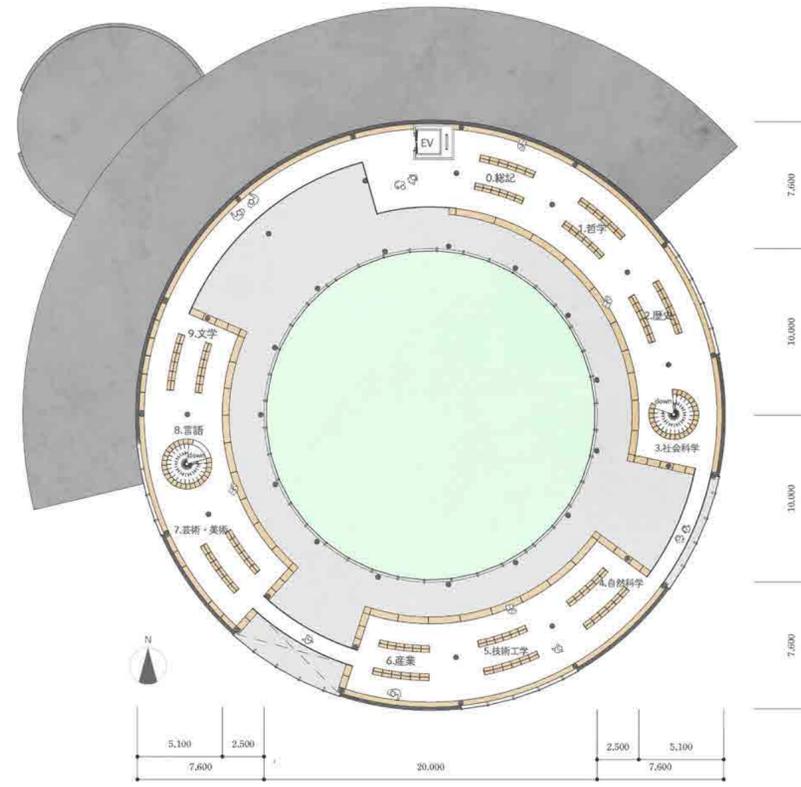


吹き抜けによる大空間での賑わい

学びのライブラリー 平面図

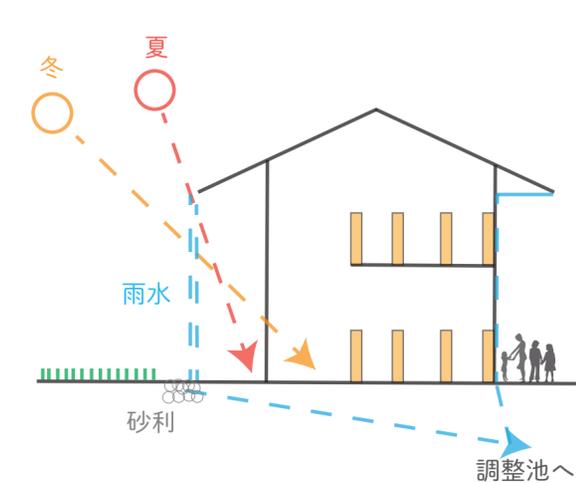


1階平面図 S = 1:300



2階平面図 S = 1:300

学びのライブラリー 断面計画



<日照・日射>

屋根の傾斜によって、夏は強い日差しを遮り、冬は暖かい光を室内に取り入れる。

<雨水処理>

中庭側は軒下に砂利を設け、屋根から落ちる雨水の跳ね返りを防ぐ。外庭側は雨どいを伝って雨水を処理する。地中へと浸透した雨水は、傾斜を活かして既存の調整池へ排水。

<軒下での賑わい>

軒下では、交流や休憩ができるゆったりとした空間が生まれる。



A-A' 断面図 S = 1:300

09 憩いのライブラリー

子育て支援や図書館での長期滞在の促進を行うことで、こどもの環境を整える。食と遊びと本がつながる空間。

・まちカフェ

地産地消を活かした料理が楽しめる空間。こどもの料理教室や職場体験ができる広いキッチンで、食とつながる。

・子育て支援室

職員と親の相談だけでなく、親同士の相談もできる。

・託児室

裸足のまま外に出ることができるようデッキを設け、屋外での遊び場を設けた。

・半屋外のたまり場

こどもが製作したベンチや本棚が並び、半屋外での読書を楽しむことができる。



雨の日でも外で遊ぶことができるデッキ

10 まちのライブラリー

まちの魅力発信を行い、まちの課題解決や歴史・文化継承につなげる。まちと本で賑わう空間。

・まちの劇場

小・中学生によるビブリオバトルや地域住民による講演会などこどもの発表の場、こどもに伝える場としての賑わいをみせる。

・ギャラリー

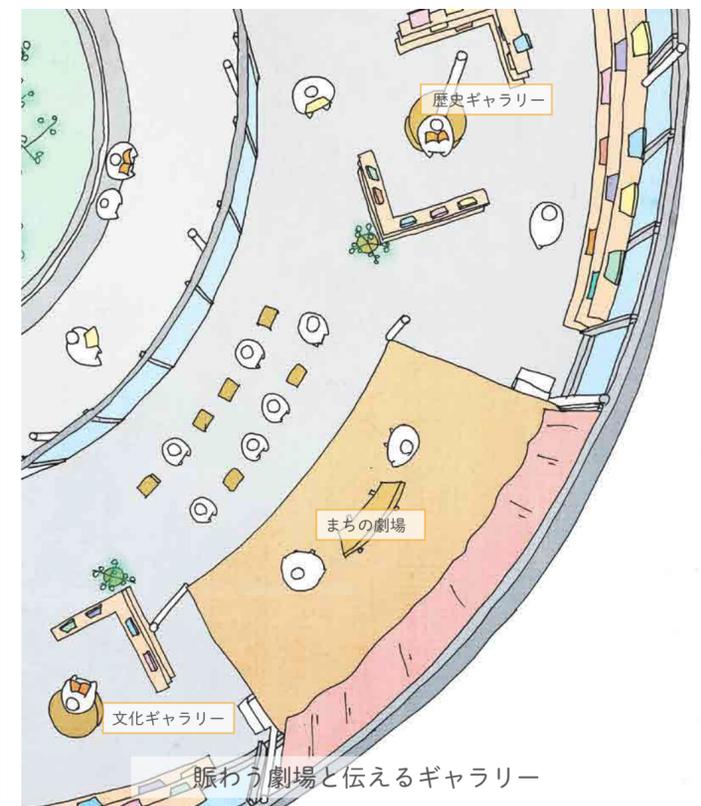
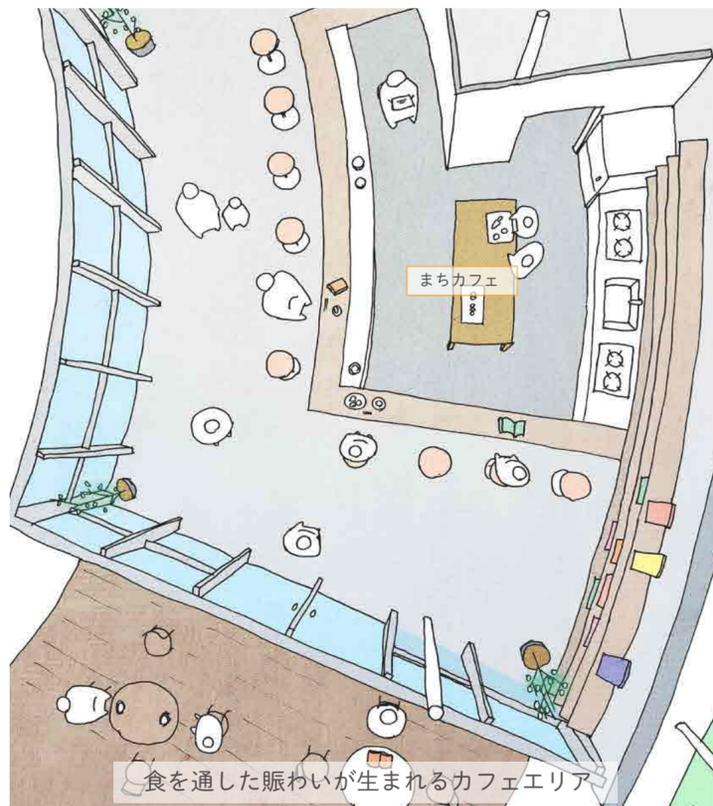
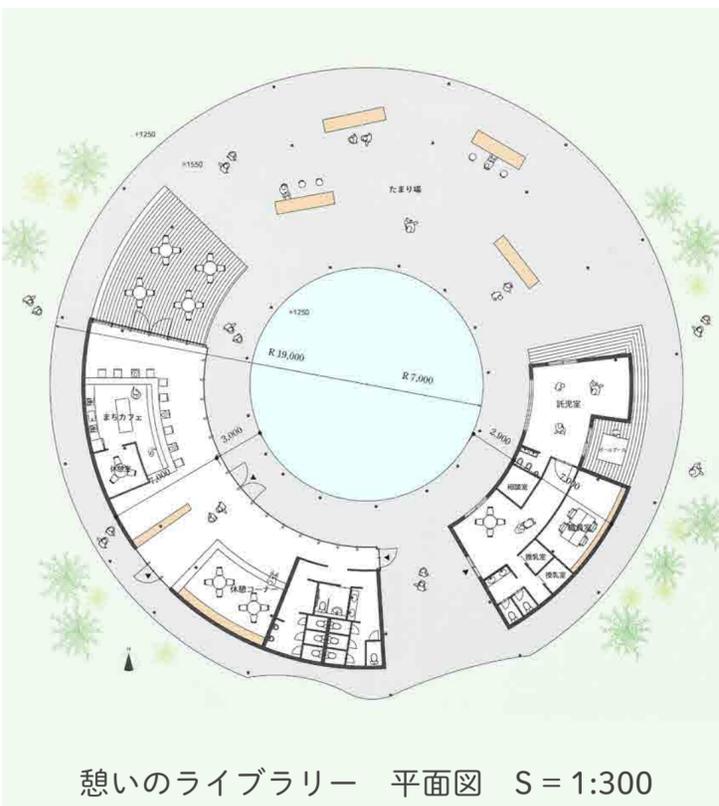
本を通して、まちの歴史や伝統文化を学ぶ空間。

・イベント室（休憩スペース）

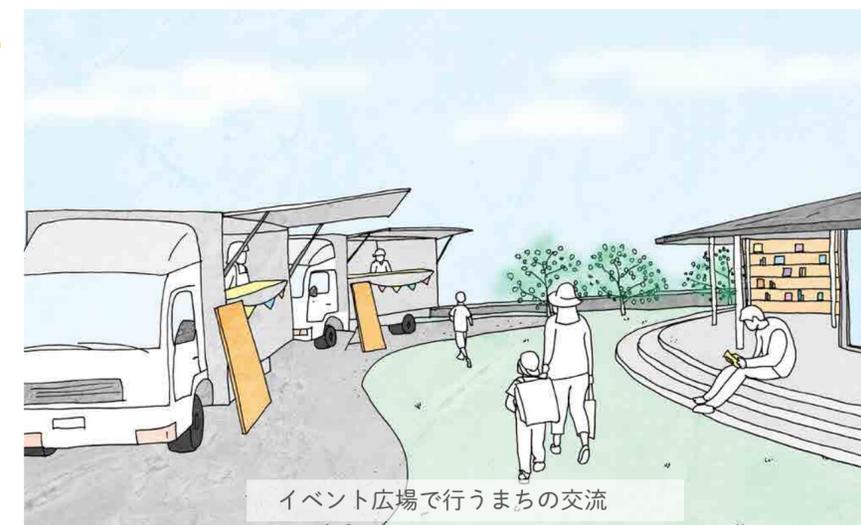
イベント時には、こどもの賑わいであふれる空間。外庭に対して開放することで、空間に広がりを持たせる。普段は休憩スペースとして利用。



様々な賑わいが交差する内側回廊



北立面図 S=1:300



イベント広場で行うまちの交流